





18歳成人



テーマ 少子化



4月から成人年齢が18歳に引き下げられました。このコーナーでは、まもなく18歳になる成美さん、成彦さんを知ってもらいたいテーマを紹介。今回は「少子化」。なぜ生まれる子どもの数が減っているのか、どのような取り組みが必要なのか、疑問に答えます。

# コロナ下 深刻な出生数減

成美さん 少子化が進んでいると聞きました。

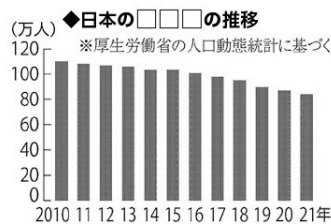
記者 1年間に生まれた子どもの数「出生数」は、2016年から6年連続で減少しています。昨年は84万2897人で過去最少でした。一人の女性が一生のうちに産む子どもの数を示す「出生率」は、05年に過去最低の1.26。その後、いったん上昇して再び減少に転じ、20年は1.34でした。

成彦さん ⑦どうして減っているのですか？

記者 結婚の時期が遅くなる晩婚や、未婚化で出生数が増えないのです。特に新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた20年春ごろには、結婚や妊娠を控える傾向にあったこともあげられます。21年1月の出生数は5万7574人で、前年より1万人以上も減り、21年に結婚した人も5万4242人と戦後最少でした。結婚しない人が増えているのは、賃金が上がらず、将来に不安があることなどが一因として指摘されています。

成彦さん ④子どもの数が減ると、日本はどうなるのでしょうか？

記者 少子化が進むと、高齢者の年金や医療制度を支える働く世代が少なくなり、制度の維持が難しくなります。私たちが高齢者になった時、



記事は「少子化＝子どもの数が減っていること」をテーマにしています。グラフが「万人」と人数を示しているのも、手がかりになります。出生率と迷った人がいるかも知れませんが、出生率は「1.26」など数が小さいので、答えではありません。

安心して老後の生活を送るための年金や医療を受けられない事態も起きかねません。

成美さん どのような取り組みが必要なのでしょうか？

記者 男女とも仕事と育児を両立しやすい環境づくりが必要です。育児休業などの制度だけでなく、社会全体で子どもを産みやすく、育てやすくしていくよう求められています。

1 上のグラフは、記事で紹介している数値の推移を示したものです。□にあてはまる言葉を3字で書きましょう。

日本の **出生数** の推移

⑦は、何が減った理由を聞いているのでしょうか。直後に記者が「出生数が増えないのです」と答えていることから、子どもの数が減った理由が知りたかった部分だと分かります。④は少子化が日本の将来に与える影響を知りたいのですね。

2 成彦さんが傍線部⑦、④のように質問し、知りたかったのはどのようなことですか。それぞれ最も適切なものを次の中から選び、番号を書きましょう。

- ⑦... ( ③ )
- ④... ( ④ )
- ① 一人の女性が一生で産む子どもの数が減り続けている原因
  - ② 新型コロナウイルスの感染拡大で、結婚する人が減っている要因
  - ③ この数年間、生まれる子どもの数が減り続けている理由
  - ④ 子どもの数が減り続けることで、将来起こりそうな問題
  - ⑤ 日本で少子化が進んでしまったことに対する記者の感想

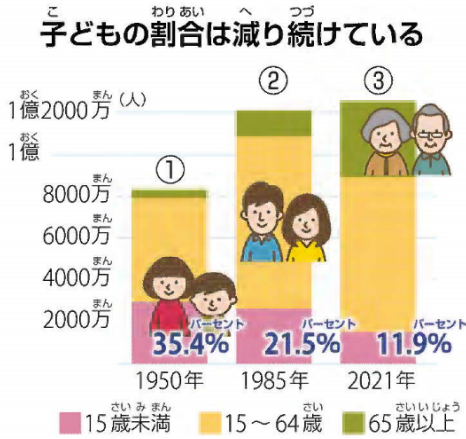
3 記事は、社会がどう変わることが、少子化を止めるのに必要だと伝えていますか。「～こと」に続くように記事中から19字でぬき出しましょう。

子	ど	も	を	産	み	や	す	く	、
育	て	や	す	く	し	て	い	く	こ

直前に「育児休業などの制度だけでなく～」とあることから、記者は制度と同じぐらい、必要なことがあると考えていることが伝わってきます。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事



70年前の半分に  
日本の子どもの数の変化  
を見てみましょう。

①1945年の第2次世界大戦直後に赤ちゃんがたくさん生まれる「ベビーブーム」が起きました。国

国は毎年、5月5日の「こどもの日」に合わせて、子どもの**推計人口**を発表しています。今年4月1日現在の0～14歳の子どもの数は前の年より19万人少ない1493万人。子どもの数は40年連続で減り続け、1950年以降で最も少なくなりました。

子ども  
の数  
減少  
続く

②ベビーブーム世代の子  
どもがお父さん  
お母さんの世  
代。1985年  
ごろの子どもの  
数は、終戦直後  
より減ったとは  
いえ、2600  
万人。ただ、人  
口が1億200  
0万人にまで増  
えたので、子ど

の調査が始まった1950年当時、子どもの数はおよそ3000万人いました。人口8320万人に対して35・4%（およそ3人に1人が子どもだったのです。

も割合は21・5%（およそ5人に1人）でした。③そして今年の子どもの数は1493万人。これは、70年前（①のころ）の半分です。しかも、35年前（②のころ）と人口はほとんど変わらないため、子どもの占める割合は11・9%で、10人に1人ほどになっています。

**推計人口**  
国は5年に1度、10月1日時点で「国勢調査」で人口を正確に調べている。ほかの月はすべて、最新の国勢調査の数字から、各市町村に届けられた出生、死亡、転出・転入を差し引きして算出している。これを「推計人口」と呼ぶ。2020年の国勢調査の結果はまだまとまっていないので、今年の子どもの数は15年のデータをもとに推計で出された。

(2021年5月13日)

読売 KODOMO 新聞より)

この記事の1年後、2022年の子どもの数はさらに25万人減りました。

わたしたちは、人口の4人に1人が65歳以上という

「超高齢化社会」を生活しているのです。

